



九州でみられる

# カエル

・オタマジャクシ  
ガイドブック



# もくじ

はじめに ······ 01

嫌われたカエルたち ··· 02

カエルの危機 ······ 04

九州のカエル一覧 ······ 06

カエルのからだ ······ 08

カエルの卵 ······ 08

本書の使い方 ······ 09



## ヒキガエル科

・ニホンヒキガエル P.10

10

## ヌマガエル科

・ヌマガエル P.22

22



## アマガエル科

・ニホンアマガエル P.12

12

## アオガエル科

・シュレーゲルアオガエル P.24

24

・カジカガエル P.26

## アカガエル科

・ニホンアカガエル P.14

14

・ヤマアカガエル P.15

・タゴガエル P.16

・トノサマガエル P.18

・ウシガエル P.20

・ツチガエル P.21

## コラム

・アカガエル属3種の見分け方 P.17

・ツチガエルとヌマガエル P.23

・そのほか両生類 P.27



## はじめに

カエルは古くから私たちの生活に密着した存在であり、江戸時代の風刺画や縄文時代の土器に描かれるなど、人間に身近な生き物として親しまれてきました。ところが近年、カエルを取り巻く環境は一変しています。水田の減少や森林伐採でカエルがすみやすい場所が少なくなり、日常の中で彼らと触れ合う機会が減っています。そのせいか、最近は触ることはもちろん、姿を見ただけでも「気持ち悪い！」と言われ、場合によっては駆除されることもあるそうです。では、もしカエルがすべていなくなってしまったら、どうなるでしょうか。本来カエルが食べてくれていた、畑や田んぼの害虫が増えてしまうかも知れません。あるいは、カエルを食べるキツネやタカなどの肉食動物が絶滅するかもしれません。たとえ嫌いであっても、彼らは生態系を支えるうえで必要な存在で、無視することはできません。

本ガイドブックは、九州本土でみられるカエル全11種を紹介しています。興味をもって読んでもらえるように、生態や形態などの専門的な文章は削り、写真やイラストを多く掲載しました。カエル嫌いの人こそ、このガイドブックを手にとっていただき、彼らの名誉挽回の第一歩になればという願いをこめて作成しました。



# 嫌われたカエルたち

カエルは、その見た目や生態などから「気持ち悪い」というイメージもたれ、嫌われていることがよくあります。しかし、その見た目や生態にはきちんとした理由があります。少し視点を変えてみると、彼らのたくましさや可愛さに気づけるかも知れません。



ヒノンアマガエル

毒がある！？

ヒキガエルは、耳線と呼ばれる部位から有毒物質を出します。しかしおとなしい性格なので、よほどいじめない限り、毒は出しません。

アマガエルも体の表面に有害物質がありますが、毒性は弱く、触ったあとに手を洗えば問題ありません。

## 集まって鳴くからうるさい！

カエルが集まって一斉に鳴くのは、繁殖のためです。鳴いているのはすべてオスで、「自分たちはここにいるよ！」とメスに知らせています。

一年のうちで、このカエルの鳴き声を聞くことができるのは、ほんの数ヶ月だけです。うるさいと思わず、「カエルのうた」に耳を傾けてみてはどうでしょうか。



ヒュレーゲルアメガ



## ぬるっとした感触がイヤ！

カエルのからだがぬるっとしているのは、乾燥から身を守るためにや、皮膚呼吸をするためなど、様々な理由があります。

ちなみに、ツチガエルは乾燥肌でカサカサしているので、ぬるっとした感触はありません。

## 触るとイボができる？

絶対にできません。「イボ蛙」と呼ばれるツチガエルや、ヒキガエルの見た目からこのような迷信が生まれたようです。



ツメガエル

## 顔が怖い！

カエルも種類ごとに顔が全然違います。ヒキガエルは少し怖い顔をしていますが、ヌマガエルやアマガエルは、可愛らしい印象があります。



ツメガエル



ヒキガエル

## つぶつぶの卵が気持ち悪い！

カエルは少しでも子孫を残すために、数千～数万の卵を産みます。しかしオタマジャクシや小さなカエルは様々な外敵に襲われる所以、大人になれるのはわずか数匹です。卵の多さは、カエルたちが生きるために長い年月をかけて取得した戦略なのです。



メスアカガエルの卵

# カエルたちの危機

カエルは両生類なので、オタマジャクシのときは水中、カエルになると陸上で生活します。そのため、水中と陸上のどちらか一方の環境が欠けただけで、カエルは生きられなくなります。実は現在、カエルたちは様々な問題と直面しています。

ここでは、現在カエルたちが抱えている問題をいくつか紹介したいと思います。

## 生息場の減少

かつては、集落のまわりに田んぼや雑木林、草地が広がる『里山』とよばれる環境が日本中にありました。そして、この里山は水辺と森林を行き来するカエルにとって非常に重要な生息場となっていました。

しかし近年、水田の放棄や、開発による森林の伐採などにより、里山が減少しています。人間の生活に密着していたカエルたちもすみかを失い、姿を消しつつあります。



雑木林と水田が隣接する里山

# 田んぼの変化

田んぼにはカエルがたくさんいるという印象がありますが、現在の田んぼは姿が変化しています。昔は、ほとんどの水田で冬場でも水がたまっている場所があり、1~3月に産卵するアカガエルやヒキガエルが利用することができました。それが現在、圃場整備がすすみ、排水性が改善されたため、冬に水がたまる場所がなくなり、産卵できなくなっています。

また、その排水性を改善するために整備された「U字溝」もカエルにとっては困った問題となっています。ほぼ垂直の壁となっているU字溝は、カエルが一度落ちてしまうと這い上がれないようになっていて、U字溝の中で干からびたり、流されたりしているカエルがよくみられます。



## 水辺の侵略

ウシガエルはアメリカ原産の外来種で、大正時代に日本に入ってきました。食用として各地で養殖されていましたが、人気はすぐになくなり、養殖場の外に捨てられた個体

が繁殖して、分布が広がりました。ウシガエルは生命力が強いので、河川や池、田んぼ、ダムなどあらゆる水辺に生息し、在来種のカエルのすみかを奪っています。また、繁殖力も強く、一度に6千~4万個もの卵を産みます。オタマジャクシの大きさも在来種のものよりはるかに大きく、同じ池にいるほかのオタマジャクシを食べてしまうこともあるそうです。現在、特定外来生物に指定されていますが、駆除は思うように進んでおらず、現在も水場の広い範囲でみられます。



# 九州のカエル一覧

(イラストサイズは実物大の約1/2)

● 大型のカエル

● 中～小型のカエル

● 足に吸盤がある

● 足に吸盤がない

● 体にイボがある

● 体にイボはない



木や岩にくっついていることが多い  
カジカガエル  
→P.26



ツチガエル  
→P.21

## アカガエル属3種

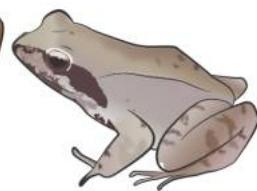
見分け方 →P.17



ニホンアカガエル  
→P.14



ヤマアカガエル  
→P.15



タゴガエル  
→P.16



見分け方 → P.23

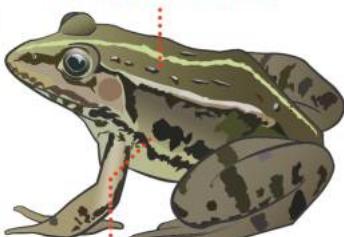


ヌマガエル  
→P.22



## 緑色のカエル

背中に目立つ線がある



全体に黒いまだら模様

トノサマガエル  
→P.18

目の横に黒い帯がある



ニホンアマガエル  
→P.12

目の横に黒い帯がない

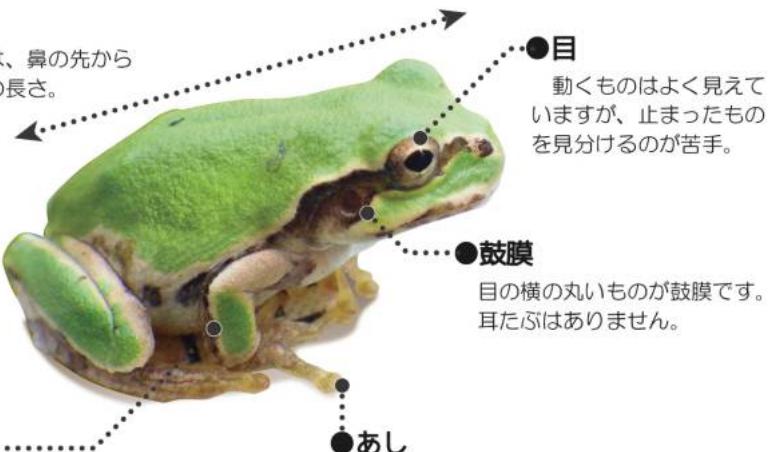


シュレーゲルアオガエル  
→P.24

# カエルのからだ

## ●大きさ

この本では、鼻の先からお尻までの長さ。



動くものはよく見えていますが、止まったものを見分けるのが苦手。

目の横の丸いものが鼓膜です。  
耳たぶはありません。

## ●おなか

たいていのカエルは、おなかの皮膚が水を通すようになっていて、おなかから水を飲みます。

## ●あし

ふつう、前が4本指、後ろが5本指です。  
指先に吸盤がある種とない種があります。  
※写真のニホンアマガエルは吸盤があります。

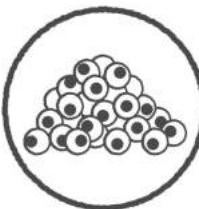
# カエルの卵

この本では、各カエルの卵の種類をイラストで紹介しています。

## ●かたまり状

つぶつぶの卵が、丸いかたまりや、シート状になっています。

もっともよく知られたカエルの卵の形です。



## ●ひも状

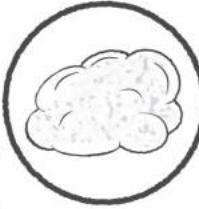
長いひもの中に小さな卵がいくつもあります。  
ヒキガエルがひも状の卵を産みます。



## ●泡状

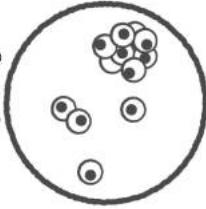
メレンゲのような泡の中に卵があり、卵を守っています。

九州のカエルの中では、  
シュレーゲルアオガエルだけがこの卵を産みます。



## ●ばらばら

小さな卵塊を、水草や水面に分けて産むので、形が定まらず、ばらばらにみえます。



# 本書の使い方

本書には野外での観察に役立つように、似た種との区別点も載せています。そのほか、生息地や繁殖期も記載しているので、種の識別以外の目的でも使用できます。

本書では情報量が不十分な点も多々あるので、より詳細な情報が知りたい場合は、専門書や図鑑等で調べてください。

## ●和名・科名・学名

和名と科名、学名は最新の図鑑である「山渓ハンディ図鑑9 増補改訂日本のカエル + サンショウウオ類」に従っています。

### ニホンアカガエル

アカガエル科 *Rana japonica*



## ●生体写真

各種の特徴がわかる写真を選んでいます。

## ●卵

各種の卵の種類を、イラストで紹介しています。  
※卵の種類は →P.08



### スマートボディのイケメンガエル

ヤマアカガエルと似ていますが、こちらの方がややスマートで、凛々しい顔をしています。外歯の少ない冬場に一度冬眠から覚めて産卵をします。最近は冬場に水がたまっている水田が多いため、産卵場が減ってきています。

大きさ：35mm～75mm

生息地：平野や低山の田んぼ、草地、森林

繁殖期：1～3月

### オタマジャクシ（実物大）

大きさ：38mm

場所：冬に水の残った田んぼ、湿地、水たまり

時期：2月～6月

尾に斑紋などはない



背面に黒い点がふたつある



## ●キャッチフレーズ

覚やすいように、各種の特徴や印象に関するキャッチフレーズを付けています。

## ●解説1

各種のカエルの大きさ、生息地、繁殖期を解説しています。

## ●解説2

親しみやすい文章で、各種の特徴を解説しています。

## ●解説3

各種のオタマジャクシの大きさ、みられる場所・時期を解説しています。

## ●オタマイラスト

オタマジャクシは写真で区別がつきにくいことが多いので、実物大のイラストで紹介しています。また、赤字で各種のオタマジャクシの特徴も解説しています。

# ニホンヒキガエル

ヒキガエル科 *Bufo japonicus*



## 樹林に棲むカエルの王様

ガマガエルとよばれる大型のカエルです。大きながらだと見た目のせいで、嫌われることが多いカエルですが、上陸したてのころは、1cmほどの大きさしかありません。

現在は数が減り、山地以外で見かけることはほとんどありません。泳ぎもジャンプも苦手なので、山の中をのしのしと歩いて移動しています。

大きさ：80mm～180mm

生息地：平野や山地の樹林内

繁殖期：3～4月





個体ごとにからだの色が違います。上の写真のように赤みを帯びた個体もよくみられます。



卵はひも状で、長いものだと20mを越えます。



## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：35～40mm

場 所：山地の沼や田んぼ、  
水たまり

時 期：3月～6月



# ニホンアマガエル

アマガエル科 *Hyla japonica*



## 言わずと知れたカエル界のアイドル

小さくて可愛らしいので、カエルグッズのモデルとして選ばれることが多いカエルです。低気圧に反応して、雨を知らせるように鳴くことから名前が付けられました。皮膚から出す粘液には弱い毒があるため、触ったあとは目などをこすらないようにして、必ず手を洗いましょう。

緑色で鼻先から鼓膜の後ろまで黒っぽい帯状の模様が入るのが特徴です。

大きさ：20mm～45mm

生息地：平野や低山の田んぼ、住宅地

繁殖期：初夏



足の吸盤で、壁や木を登ります。



卵はかたまらず、水面にばらばらに浮きます。

茶色いまだら模様のある個体



全身灰色の個体



アマガエルは環境にあわせて、体の色を灰色や茶色に変えることができます。



スイカ色!?



## オタマジャクシ（実物大）



大きさ：50mm

場所：田んぼや、  
水たまりなど



時期：5月～8月



尾の付け根が体の前方にある



はなれ目 黒い点がひとつある

# ニホンアカガエル

アカガエル科 *Rana japonica*



## スマートボディのイケメンガエル

ヤマアカガエルと似ていますが、こちらの方がややスマートで、凛々しい顔をしています。外敵の少ない冬場に一度冬眠から覚めて産卵をします。最近は冬場に水がたまっていない水田が多いため、産卵場が減ってきています。

大きさ：35mm～75mm

生息地：平野や低山の田んぼ、草地、森林

繁殖期：1～3月

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：38mm

場所：冬に水の残った田んぼ、湿地、水たまり

時期：2月～6月



# ヤマアカガエル

アカガエル科 *Rana ornativentris*



## ぽっちゃりボディの仏頂面

名前のとおり山地にすむカエルです。二ホンアカガエルよりも、体型がぽってりしていて、顔はぶっっとして見えます。二ホンアカガエルと同様に冬場に産卵をします。繁殖期以外は山の中にいるので、見かけることはほとんどありません。

大きさ：40mm～80mm

生息地：平野～山地の森林

繁殖期：1～3月

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：50mm

場 所：冬に水の残った田んぼ、湿地、水たまり、池

時 期：5月～8月



# タゴガエル

アカガエル科 *Rana tagoi tagoi*



## 田んぼにいない田子ガエル

山中でもっともよく見かけるカエルです。両生類学者の田子勝彌氏を記念して名前が付けられました。繁殖期に渓流沿いの岩の下などで「グッ、グッ・・グゥウ、グゥウ」と鳴きますが、姿は見えません。ほかのアカガエルより、手足がやや短い印象です。

大きさ：30mm～59mm

生息地：山地の樹林

繁殖期：3～4月

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：22mm～28mm

場所：渓流や岩場の伏流水

時期：5月～6月



からだは小さくて白っぽい

# アカガエル属3種の見分け方

九州本土には3種のアカガエルが生息しています。見た目がよく似ていますが、見分け方を知れば簡単に区別できます。ここでは、アカガエル属3種の見分け方を紹介したいと思います。

## ニホンアカガエル

### 生息地

平野～山地の水田、草地、森林

### ●のど



のどは白い

## ヤマアカガエル

### 生息地

平野～山地の森林



黒い斑紋ができる

## タゴガエル

### 生息地

山地の樹林



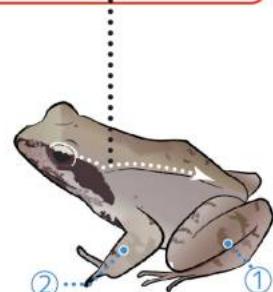
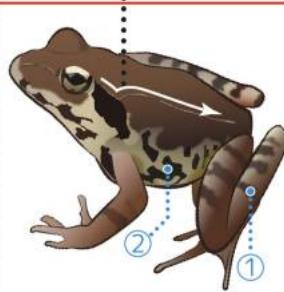
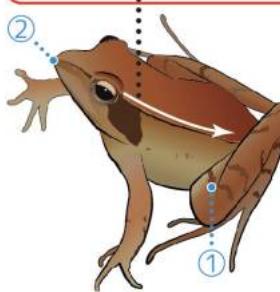
黒っぽいまだら模様

### ●背中にある2本の線（背測線）

まっすぐで曲がらない

目の横で曲がる

目の横で曲がるが  
線は目立たない



### ●そのほかの特徴

① 足のしま模様は細い

① 足のしま模様は太い

① 足のしま模様は薄い

② 鼻先が少しとがる

② わき腹にも斑紋ができる

② 手足が短い

# トノサマガエル

アカガエル科 *Pelophylax nigromaculatus*



## 田んぼから消えゆくお殿様

かつては田んぼを代表するカエルでしたが、最近の田んぼは、6月ごろに中干しをして水がなくなってしまうため、繁殖場所が減っています。跳躍力が強く、かなりの距離をジャンプできます。ほかのカエルと違い、オスとメスでからだの色が違います。

大きさ：38mm～95mm

生息地：平野や低山の田んぼ、水たまり

繁殖期：4～6月





オス 背中の真ん中  
にある線が緑色



メス 背中の線は  
クリーム色



↑水辺が大好きです。

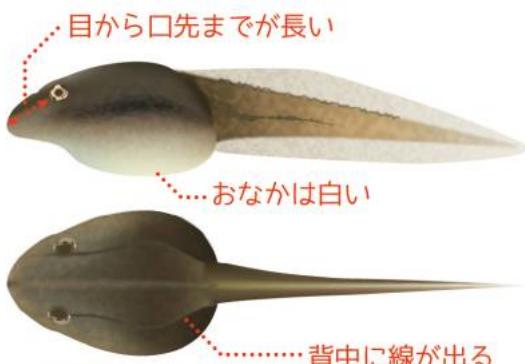
←殿様というだけあり、貴祿のある  
美しいカエルです。

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：69mm

場所：平野や低山の田んぼ  
水たまり

時期：5月～8月



# ウシガエル

アカガエル科 *Lithobates catesbeianus*



## 捕獲困難な指名手配犯

「食用ガエル」としてアメリカから輸入された外来種です。跳躍力が強いうえ、水中の潜水や泳ぎも上手なので非常に捕まえづらいカエルです。現在は特定外来生物に指定されているので、捕まえても、生きたままの持ち運びや飼育が禁止されています。

大きさ：110mm～185mm

生息地：平野の河川、池沼  
田んぼ、ダム

繁殖期：5～8月

## オタマジャクシ（実物大）



体と尾に黒点と白点がたくさんある

大きさ：100mm～120mm

場所：平野の河川、池沼、  
田んぼ、ダム

時期：一年中

# ツチガエル

アカガエル科 *Glandirana rugosa*



## 古池に飛び込んだ“あの”蛙！？

「いぼがえる」と呼ばれるだけあって、全身にいぼ状の突起が目立ちます。ほかのカエルと違い、からだの表面はヌルヌルしていないのが特徴です。

有名な俳句「古池や蛙飛び込む水の音」のカエルは場所や時期からツチガエルの可能性が高いと言われています。（諸説あり）

大きさ：30mm～60mm

生息地：平野～山地の田んぼ  
や河川、溪流など

繁殖期：5～8月

## オタマジャクシ（実物大）



尾に小さな黒点と銀白色点がたくさんある



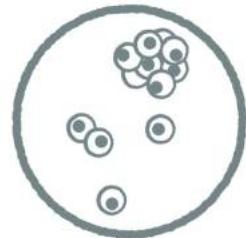
大きさ：50mm～70mm

場 所：田んぼ、池沼、  
溪流脇のよどみ

時 期：一年中

# ヌマガエル

ヌマガエル科 *Fejervarya kawamurai*



## 都会で生き抜くタフなカエル

もっともよくみられるカエルです。田んぼが少なくなり、カエルの生息場が減ってきている現在も分布域を拡大しているタフなカエルです。よくツチガエルと間違えられますが、おなかが白いところで区別できます。

大きさ：28～55mm

生息地：平野～低山の田んぼ  
や湿地などの水辺

繁殖期：5～8月

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：30mm～40mm

場所：田んぼ、水たまり

時期：5月～9月



尾に黒い斑紋がある



より目

# ツチガエルとヌマガエル

ツチガエルとヌマガエルは、色や見た目が似ているので、よく間違えられます。ここでは、2種の見分け方と、見分ける際の注意点を紹介したいと思います。

## ●おなか



左：ツチガエル  
・おなかにまだら模様

右：ヌマガエル  
・おなかは白い

## ●背中の線（背中線）



左：ツチガエル  
・背中に線はない  
・表面は乾いている

右：ヌマガエル  
・背中に線がある  
・表面は湿っている

### 注意点！

ヌマガエルは、背中線がない個体も多くみられます。反対に、背中線があるツチガエルもいるそういうです。

背中線だけで区別するのではなく、おなかの色まで見て判断すると間違いないありません。



背中線のないヌマガエル

# シュレーゲルアオガエル

アオガエル科 *Rhacophorus schlegelii*



## 外来種と言わないで、アマガエルと呼ばないで！

少し気だるそうな表情が印象的な可愛らしいカエルです。シュレーゲルという名前は、江戸時代にシーボルトが持て帰った本種の標本を研究した、オランダの学者の名前が由来です。水田のまわりでよく見られるカエルですが、アマガエルと区別されないことが多い、知名度はあまりありません。

大きさ：30～55mm

生息地：平野～山地の田んぼや湿地

繁殖期：4～6月



緑ではなく、暗い色になることもあります。



水辺の穴の中で繁殖活動を行います。



卵は泡状で、陸上  
に産卵します。



卵から出たオタマジャクシは、自力で水場  
まで移動します。

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：49mm

場所：田んぼ、湿地

時期：5月～8月

尾にまだら模様がある



# カジカガエル

アオガエル科 *Buergeria buergeri*



## 溪流に響く美声

アオガエルの仲間ですが、からだの色は茶褐色から灰白色で、緑色にはなりません。繁殖期には「フィフィフィフィフィー」と綺麗な声で鳴き、鳥と間違えられることもあります。流れが速い渓流でも流されないように足の吸盤が発達しているのが特徴です。

大きさ：30～85mm

生息地：川の上流～中流と周辺の森林

繁殖期：5～6月

## オタマジャクシ（実物大）

大きさ：15mm～45mm

場所：川底の砂利や小石の隙間

時期：5月～9月



口が大きい



尾にまだら模様がある

# そのほか両生類

両生類には、カエルのほかに、イモリやサンショウウオの仲間も含まれます。イモリやサンショウウオは、大人になっても尻尾があるので、『有尾目』というグループに属します。ここでは、九州で比較的よくみられる有尾目を3種紹介したいと思います。

## アカハライモリ

イモリ科 *Cynops pyrrhogaster*



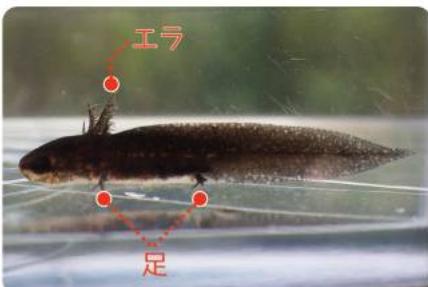
大きさ：70～140mm

生息地：池、田んぼ、湿地

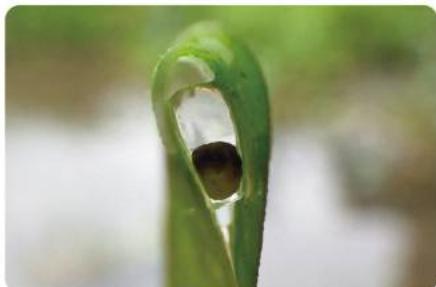
繁殖期：5～7月

## 世界一北にすむイモリ

世界のイモリの中で、もっとも北に分布する種です。日本固有種で、海外ではペットとしての人気もあります。毒々しい見た目とおり、からだにはフグと同じテトロドトキシンという毒があります。



オタマジャクシは真っ黒  
カエルと違い、足が最初からあります。



卵は、折った水草などのなかに、ひとつずつ産みつけます。

# カスミサンショウウオ

サンショウウオ科

*Hynobius nebulosus*



## 平地でみられるサンショウウオ

止水性のサンショウウオで、水田や湿地、池などに産卵します。尻尾に黄色っぽい線が入るのが特徴です。人の目につきにくい場所に生息しています。

大きさ：60～130mm

生息地：谷間の湿地や田んぼ

繁殖期：3～4月

## オタマジャクシ



# プチサンショウウオ

サンショウウオ科

*Hynobius naevius*



## 大理石模様のサンショウウオ

流水性のサンショウウオで、溪流や沢の石の下などに産卵します。黒いからだに銀色のまだら模様があり、とても綺麗なサンショウウオです。

大きさ：80～150mm

生息地：山地の森林や渓流

繁殖期：4～5月

## オタマジャクシ



## 参考図書(より詳しい情報が必要な場合におすすめの図鑑)

『カエル・サンショウウオ・イモリのオタマジャクシ ハンドブック』(文一総合出版)

『カエルのきもち』(晶文社)

『決定版 日本の両生爬虫類』(平凡社)

『長崎県の両生・爬虫類』(長崎新聞社)

『広島県の両生・爬虫類』(中国新聞社)

『山溪ハンディ図鑑9 増補改訂 日本のカエル+サンショウウオ類』(山と溪谷社)

表紙写真・1段目:ニホンアマガエル

2段目:カエルのために造成したビオトープ

3段目左から:ニホンヒキガエルの幼体／ニホンヒキガエルの卵／トノサマガエル

裏面写真・シュレーゲルアオガエル

## 九州でみられる カエル・オタマジャクシ ガイドブック

制作

平成28年4月 発行

一般財団法人 九州環境管理協会

著者

泉佑樹 田中俊也

〒813-0004 福岡県福岡市東区松香台1-10-1

電話:092-662-0446(直通) 092-662-0410(代表)

FAX:092-662-0411

※非売品

本書の内容を使用、引用する場合には著者あてに連絡いただき許諾求めて下さい。



九州でみられる  
カエル・オタマジャクシ  
ガイドブック

九環協ブックス  
002